



ごあいさつ

理事長 杉本 宗之

平素より、私ども「四国ろうきん」をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

本年もここにディスクロージャー誌「2023四国ろうきんの現況」をお届けします。

「ろうきん」は、かつて「金融排除」された労働者や生活者が「相互扶助」の精神で資金を出し合って創った「協同組織の福祉金融機関」であります。1952年の設立からこの間、私ども「四国ろうきん」が常に労働者に寄り添いながら時代の変化とともに労働者の多様なニーズに応えてくることができましたのは、ひとえに会員各位をはじめ関係団体のご理解とご支援の賜物であり、心からの感謝を申し上げます。

2022年度はおよそ3年間にわたって猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症に加えロシアのウクライナ侵攻に起因する原材料不足や物価の急上昇など本当に大変な一年でございました。私どもはそのような混乱の中ではございましたが、「デジタル革命下での経営改革」と「理念経営の実践による役割発揮宣言」を二大テーマに「第8期中期経営計画」の中間年を乗り切る事が出来ました。そして「労働者の生活向上」という理念経営の実現や「金融包摂」による事業存続の礎を築く施策を積極的に行ってまいりました。

その結果、収支面では、経常利益は9億99百万円（計画比+48百万円）、当期純利益は7億30百万円（計画比+32百万円）と、コロナ禍や物価高そして長期化する低金利環境という厳しい状況下においても尚、計画を達成することができました。なお、自己資本比率は、10.34%となりました。

2023年度は、「第8期中期経営計画」3か年の総仕上げであると同時に次期「第9期中期経営計画」の準備という極めて重要な年度になります。将来にわたって会員の皆さまやお客さまに信頼され選択され愛され続ける「四国ろうきん」となる為にも、見直すべきところは見直し、同時に労働者福祉金融機関として「経営理念」など変えてはならぬものはしっかり堅持して計画達成に取り組んでまいります。

世の中を翻弄し続けた新型コロナウイルス感染症は「5類移行」により、その感染対策などは大きな節目を迎え、2023年度は本格的に経済活動も活発になってくる事でしょう。しかしながら、今後も世界規模で起こるパンデミックや気候変動、そして国際紛争に起因する貧困や格差拡大が懸念されます。「四国ろうきん」はそのように激変する社会環境に対して社会的な存在意義をしっかりと自覚して臨み、「協同組織福祉金融機関」としてその使命を果たして行く所存でございます。役職員一丸となってこの難局を乗り切る覚悟でございますので、どうぞ会員の皆さまにおかれましても、これまで以上のご理解とご支援をお願い申し上げます。

このディスクロージャー誌は、「四国ろうきん」の機能や役割、そして2022年度の業況等を取りまとめたものです。本誌によって、私どもに対するご理解を一層深めて頂ければ幸いに存じます。

2023年7月